

動物の診察室から

○ 21 ○

ミニチュア・ダックスに入りませんが、現在新潟のモツオ君は十七歳です。昨年十一月に下顎骨にしこりができ、針生検の結果、そのしこりは腫瘍と思われる、レントゲン検査で骨への浸潤が見られました。モツオ君の腫瘍を治療する場合は、針生検では腫瘍の種類

に入りますが、現在新潟ではできません。モツオ君は、あごにしこりがありますが、現在は食事も普通に取れて、元気です。年齢的に十七歳と高齢なこと、残された期間あごを切除して生活することの不便さを考え、ご家族と病院とで



シャンパーへ来たモツオ君

高齢であごに腫瘍

「何もしない」のも治療

類が確定できませんでしたので、軽い麻酔をかけて腫瘍の一部を採取して病理検査を行い、そして造影剤を血管より注射してCT検査で、腫瘍の浸潤を確かめることになりました。

そして、積極的な治療

は、その腫瘍が良性でも悪性でも、外科的に下顎骨を切除し、必要なら抗がん剤の投与になります。放射線治療も選択肢の中

話し合い、治療は「何もしない」を選択しました。従って、これ以上の検査の必要もなくなりまし

た。モツオ君のご家族は、もう一匹ワンちゃんを飼っていますし、今までも多くのワンちゃんを飼育してきました。その子た

大きな病気はせずに十七歳を迎えました。

モツオ君の腫瘍が大きくなって、もし痛みが出

るのは、痛みがあると推測されます。動物も、痛いのはいやです。そんな場合には、痛みだけを取る治療をすることはよくあります。

モツオ君は、あごに腫瘍がありますが、お母さんたちに愛されて、毎日を過ごしています。病気になる

ちはみんな訳あって捨てられたワンちゃんたちです。モツオ君のお母さんは、飼い主がいなくなっただけを引き取っていいのです。みんな大人になってから引き取られた子たちですので、いろいろな病気になることも、モツオ君はその中でも、

てきたら、痛いだけ取ってあげましょうねとお話しています。ペットも長く生きるようになり、腫瘍になる動物も以前より多くなってきました。腫瘍の末期になると、当然痛みが出ることがあります。ぐっすり眠れなく

ばってね！

草村 正人 (獣医師・新潟市)

＝毎月第2・4木曜掲載＝

